

OSAKA
UNIVERSITY
OF ECONOMICS

KEIDAI DAYS

大阪経済大学
OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS

2014年12月

No.41

http://www.osaka-ue.ac.jp/

発行：大阪経済大学広報課 〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8 / 本紙へのご意見は、webmst@osaka-ue.ac.jpへお寄せ下さい。(本紙記事の無断転載を禁ず)

ホームカミングデー開催

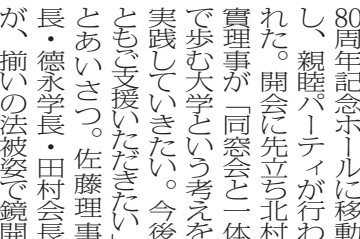
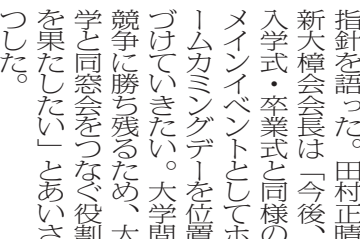
つながり深めて **大学力** 向上へ



人間科学部

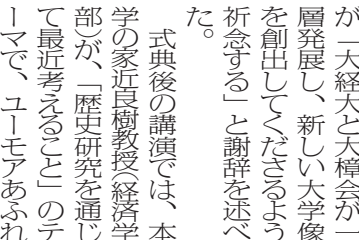


北村實ゼミ



平成26年度大阪経済大学ホームカミングデー！大樽会総会やゼミ同窓会などが11月3日（月・祝）午前11時から、D館41教室・80周年記念ホールで開催された。

開会前に本学グリーククラブによる合唱が披露され、式典では物故会員への黙祷、学歌斉唱の後、7月に着任した佐藤武司新理事長が登壇、「18歳人口の減少により各大学が学生獲得の施策を打つなか、大学と同窓会が一体となるべき時期を迎えている。皆さんの力を借りながら、小さな積み重ねによる改革に取り組み、大樽大を夢見ていきたい」と抱負を述べた。続く徳永光俊学長は、本学体育会系クラブの活躍やゼミ活動の成果などを紹介し、「学生たちの努力が結果となって現れてきており、大樽大パワーを感じている。就職支援の取り組みも社会で高く評価されている。本学独自の理念である『道理は天地を貫く』という言葉を学生たちが考える大学を作っていきたい」と、教育の現状や指針を語った。田村正晴新大樽会会長は「今後、入学式・卒業式と同様のホームカミングデーを位置づけていきたい。大学間競争に勝ち残るため、大学と同窓会をつなぐ役割を果たしたい」とあいさつした。



チーム中村C班〈中村ゼミ〉

日経ビジネスアカデミック・サポート・プログラム西日本インカレ2014予選会が11月16日（日）午前10時20分から、本学のD館4・5階で開催された。

本学からは11月1日 第一部・午後の第2部で（土）のZEMリーグラ力のこもったプレゼンテーションで入賞した、中村一シヨンを披露した。健二ゼミの「チームKENJI」「チーム中村C班」、徳永光俊ゼミの「徳ちゃんず」の3チームが出場。西日本地区（中部・関西・中国・四国・九州）の大学から参加した64チームが、A・B・C・D・E・Fの6ブロックに分かれ、午前の



徳ちゃんず（徳永ゼミ）

審査員からも高評価

△KENJIの発表テーマは「学生による農家のための6次産業化支援プロジェクト『学農』の提案」。プレゼンテーション後、審査員から「農業支援は重要課題であり、楽しく聞かせていただいた」「学生の立場での農業支援策は面白いと感じた」などの感想があり、「プロジェクトの持続可能性」「農業に興味を持ったきっかけ」などについて質疑応答が行われた。

Cブロック第2部の「チーム中村C班」の発表



チームKENJI〈中村ゼミ〉

テーマは「節約デキスパートの提案〜近隣スーパーの価格比較アプリ〜」。

審査員から「よく考えられた発表だった」「構想のシステムも素晴らしい」などの感想があり、「情報」が漏洩する可能性は？」「価格だけでなく付加価値も大事ではないか」などの質問が出された。そして

てFブロック第9部の「徳ちゃんず」の発表テーマは「注染ちゅうせん」に見る伝統と革新〜堺に根づく職人の技〜。審査員から「私と価値観を共有している」「当社の社員に聞かせたい内容だった」などの感想が述べられ、「新製品の持続的な売れ行きは？」「新事業を軌道に乗せるためのポイントは？」などの質問に答えた。

この予選会の審査結果は11月18日（火）、各チームにメールで通知され、本学からは「チーム中村C班」の本選出場が決定。12月14日（日）、本学で開催される本選で、西日本地区12チームが競うことになった。

チーム中村C班

西日本インカレ2014

西日本インカレ決勝 出場決定!!

主な記事

contents

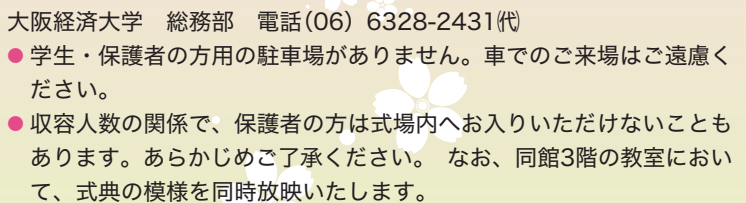
- (1) 西日本インカレ決勝出場決定他
- (2) 教育懇談会他
- (3) 大樽会だより
- (4,5) ZEMリーグラプリ
- (6) FD通信他
- (7) 客員教授講演会他
- (8) 17歳からのメッセージ



次回ホームカミングデー開催のご案内

2015年
11月1日（日）

当日は、大学祭も開催していますので、学生たちの模擬店や新しくなったキャンパスをご覧いただきながら、恩師、旧友、在学生そして母校との絆を深めていただきたいと思います。大阪経済大学にお越しください。



未来へのアプローチ、新体制が発足！

大樟会だより

秋の好天のもと大樟祭が賑やかに繰り広げられているなか、平成26年11月3日(月・祝)、午前11時から、ホームカミングデー・大樟会総会が盛大に開催された。2013年9月に竣工したばかりのD館を会場とし、このほど新たに就任された佐藤武司理事長(前大樟会会長)、徳永光俊学長、新体制となった大樟会の田村正晴新会長ほか、全国各地から約254名の同窓生らが参加。オープニングセレモニーに次いで感謝状の贈呈があり、その後、記念講演会が行われた。午後は同館8階の80周年記念ホールで交流パーティが開かれ、参加者が歓談の時間を過ごし旧交を温めた。

卒業生の絆のより一層の強化と大学・大樟会一体で学生支援を

会場では、総会開催に先立ち、グリークラブ1人(88回卒)の司会によって開会が告げられた。学歌斉唱後、学校法人

華やかに開催

平成26年度ホームカミングデー・大樟会総会



大阪経済大学の佐藤武司新理事長があいさつに立ち、「勝田泰久前理事長からご指名を受け、今回の就任となった。2018年から18歳人口が大幅に減少するといわれ、これは大学経営にとって大きな課題となっている。近年の若者は「草食系」が多いといわれるが、本学では「骨太」と呼ばれる人材、社会で役立つ人材づくりを目指していきたい。

80周年記念事業によりキャンパス整備が行われ、いよいよ内容の整備に入る。ゴミのないキャンパス、挨拶の奨励など、小さなことからコツコツと確実に、改革が進んでいる。今後、大樟会の皆さんのお知恵を借り、改革のノロシを上げたい。大学を訪れる機会を増やしていただき、きれいになった大樟会事務局、そして開かれた理事長室を訪ねてほしい」と支援や助言を求め、交流を呼びかけた。

次に徳永学長が壇上に立ち、前日にテレビ放映された全日本大学駅伝への3年連続出場、弓道部の団体優勝など、クラブ・サークル活動の成果を紹介。また、情報社会学科の中村健二ゼミが日刊工業新聞のベンチャービジネスアワードのコンテストで関西地区優勝を果たしたと、日本経済新聞の「入事」選就職支援に熱心な大学「全国6位にランクインしたこと」を伝えた。

その上で「学生たちは各分野で『No.1』を目指している。『ゼミの大経大、マナーの大経大、就職の大経大』も実現しつつある。時代の転換期といえるが、学生たちは日本文化に根ざした内面的・文化的価値を模索し、英語をツールとして用い、世界に発信しなげればならない。初代学長・黒正巖博士の言葉『道理は天地を貫く』の『道理』とは何かを考える力を持つ学生の育成、それが我々の教育の王道であり、生き残る道だと考える」と力を込めた。

続いて、田村会長がこのほど、卒業生総数が9万人を超え、10万人時代も目前に迫った。その『つながり』をどう強化するかが我々、また大学にとっても課題になってくる。大樟会総会の軒下を借りてのホームカミングデーではなく、それを入学式・卒業式に次ぐ3本目の矢、軒下ではなく母

屋として位置付けてほしい」と熱心に呼びかけた。このあと、永年にわたって母校や同窓会の発展に力を尽くし、このたび退任された9名(別掲)に、田村会長から感謝状・記念品が贈られた。恒例の記念講演は、経済学部家近良樹教授により、「歴史研究を通じて最近考えること」をテーマとして行われた。

午後の懇親パーティは吉仲さんと竹中亨大樟会事務局長が司会を務め、経営学部北村貴教授が「大学と同窓会」をテーマとして行われた。

勝田泰久氏
佐藤武司氏
大門壽郎氏
齋 貞文氏
植村祐三氏
野崎邦男氏
下垣恒彦氏
梶村貞男氏
大谷忠久氏

前本学理事長
前大樟会会長
前北摂支部長
前大樟会常務理事
前大樟会監事
前高知支部長
前大樟体育会会長
前大樟会常務理事

● 感謝状贈呈者 ●

新任のごあいさつ

阪神地域の新支部、29名の参加で発足 母校との連携・協調し、元気にスクラム

川西・川辺支部

支部長 竹本 勇 昭和44年卒(35回)



当地域永年の懸案でありました支部設立を、平成26年11月16日開催の総会で実現することができました。阪神地域では最後発となります。川西・川辺地区は地域の中心駅・川西能勢口駅から上新庄駅まで40分足らずと、交通の利便性もよく、思いのほか卒業生が多く、新支部参加案内状は660名を数え、29名の参加を得て発足しました。

今後、さらに参加者を増やすべく工夫を重ねながら安定的な活動を目指したいと思います。今後の活動については、

「つながる大経大」として発展している我が母校と大樟会が、如何に連携・協調していけるのか、また我々の日々の生き甲斐にどう繋げていくのか、課題は山積していると思います。

しかし、「之を知るものは之を好むものに如かず、之を好むものは之を楽しむものに如かず」の言葉もありますように、如何に楽しむか、実学の大経大生時を思い出しながら、元気にスクラムを組んで歩きたいと思っています。ご支援よろしくお願いいたします。

「つながる力と心」を旨とし、大切に。

豊中支部

支部長 田中功一 昭和51年卒(42回)



平成26年6月22日に第30回支部総会が開催され、植田前支部長から第9代支部長としてバトンを引き継ぎました。支部が発足し30年間、活動行事は変わらずに継続しています。年2回行なわれるハイキングとゴルフ、そしてボウリング、読書会、麻雀にカラオケなど体力の維持・向上と頭脳の活性化に取り組んでいます。

総会で講演していただいた豊中市社協永井会長のお話では、40歳以上の「引きこもり」の方が多くおられるとのことでしたが、大樟会会員の皆様には、是れとも当支部行事にご参加をお待ち申し上げます。また、特に印象深いお話は「若い人達には、今ひとつ考えて物事をしていけ(生計)、貯金はしておけ(急に起こる貧困)。いざとなったらお金だ。病気は、一番不幸で、幸せは何と言っても健康」とのことでした。今後、良き活動は継続し、会員の発案・発想もしっかり受け止めた活動を展開してまいります所存です。本部役員をはじめ皆様のご支援、ご鞭撻、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

震災から20年の節目、魅力ある神戸支部に

神戸支部

支部長 正岡健二 昭和45年卒(36回)



平成26年11月5日神戸支部役員会において下土井康晴支部長の後任に指名されました正岡健二でございます。

神戸支部の皆様には社会、大学等に多大なご功績を残されている方々がいらっしゃるなかで、ご指名を受け責任の大きさに戸惑いを感じております。下土井支部長より度々ご指名を受けながら、お断りをしておりました。私ごとですが神戸支部をさらに進化させることには全く自信がございません。役員の方々はじめ会員の皆様の支える力が必要です。

折しも平成27年は阪神・淡路大震災から20年が経ちます。このような節目のときに支部長をお引き受けするも何かのご縁かと思えます。大阪経済大学に学んだ生徒のひとりとして、生きる勇氣と知恵を与えていただいた諸先生方、先輩諸氏さらには思いを受け継いでいる後輩たちに感謝をしつつ、魅力ある神戸支部の運営に微力ながら尽くす所存です。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をよろしく願ひします。

明るく親しみのある組織を目指したい

税理士大樟会

会長 檜垣典仁 昭和47年卒(38回)



皆様にはいつも税理士大樟会を支えていただきましてありがとうございます。この度、第23回定期総会の役員改選におきまして、2期4年にわたり、会長として税理士大樟会の発展にご尽力いただいた三木泰会長の退任に伴い、新会長を拝命することになりました。なにぶん浅学菲才な私でございますが、精一杯、税理士大樟会の発展に努力する所存でございますので、皆様のご支援ご協力の程宜しく願ひいたします。

さて、税理士大樟会は歴代会長のご尽力のもと、着実に発展し、近畿税理士会においても先輩諸氏のご活躍により広く認知されてきました。私は税理士大樟会で、多くの皆様と心温まる交流をさせていただき大変嬉しく思っています。会長就任にあたり、研鑽と親睦をメインに税理士大樟会の活性化、組織の充実、そして会員増強を重点施策とし、同窓の良さを活かした明るく親しみのある組織を目指したいと思っています。また、同窓会の一団体として、微力ながら同窓会発展のために努力する所存でございますので、皆様、なお一層のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

スポーツを通じて社会が求める「人財」づくりを

大樟体育会

会長 山本隆造 昭和46年卒(37回)



平成26年10月、3代目大樟体育会会長に選出されました。前身は平成13年2月に設立されました体育会連絡協議会で、鮫島初代会長の下、加藤、藪田、佐藤の各氏が副会長に就任されました。

強化7クラブから発展し、現在、大樟体育会では強化14クラブ、活性化21クラブとなりました。今、大樟体育会に期待されるのはスポーツを通じて社会に貢献できる「人財」の輩出です。そのためには

- 1 挨拶、礼儀、作法の指導の励行
- 2 学業とスポーツ活動に専心できる環境づくり(補講の実施、巡回バス、宿舎施設、食事付クラブ学生寮施設、等)
- 3 最強化クラブにおける監督、コーチの本学直接雇用の適用

学生部(スポーツ文化振興室)、体育会本部、大樟体育会が一丸となって、この三項目を実現すれば経大プライドを持った学生を社会へ送り出せると考えます。日頃、ボランティアで指導していただいている各クラブのOB、OGの方々に心から感謝を申し上げます。

大樟会の皆様には季節柄、くれぐれもご自愛の程お願いいたします。私のご挨拶とさせていただきます。

前支部長の遺志を継いで、岐阜支部を盛りあげます

岐阜支部

支部長 山根一男 昭和55年卒(46回)



このたび、大樟会岐阜支部長に任命されました山根一男です。岐阜支部におきましては、長く休眠状態でありましたが、2年前に前支部長の浅野四郎様(35回)のご尽力により再スタートいたしました。私はその時からの参加で、副支部長として会の運営にあたってきましたが、今年の夏に浅野様は体調を崩され急逝されました。突然のこと言葉もなくしてしまいましたが、彼の支部再興への情熱を是が非でも引き継いでいかねばという思いであります。

岐阜県には把握されているだけで200名からの同窓生がおります。私は卒業後、(株)千趣会に就職し、物流センターがあった可児市に転勤になったことから岐阜に縁ができましたので、同窓生の中にも知り合いは一人もいませんでした。その後、会社を辞め可児市議会議員(4期目)となつて今日があります。同窓会に参加するようになって、たとえ同じ時期に学んだ者ではなくとも、4年間同じ門をくぐった仲間というだけで、世帯を超えてつながる喜びがあることを知りました。ぜひ、この喜びの輪を岐阜県でもっともっと広めていきたいと思っています。

骨太で文武両道の経大生を望む

明石支部

支部長 池上照夫 昭和49年卒(40回)



明石支部では、同窓会会長と明石支部長を兼務されておられた佐藤武司氏が大学の理事長就任ということで、支部のメンバーから新しい支部長を選ばなければならなくなり、この非力な私に白羽の矢が飛んで参りました。人間は、お世話になるばかりの(仏教用語で)所化から、お世話を受けていただく能力の道を選ばせていただくことも大切であると、ある先輩から教わりました。これからの超高齢化社会に向かって、東京一極集中の日本経済から関西経済の活性化や、地方の再生に向けて、佐藤理事長が提唱されておられる骨太で、時代の変化に柔軟に対応する能力を備え、また、徳永学長が発信されておられる文武両道の経大生を自ざしていただきたいと、同窓生の一人として望んでいます。

新しい学舎、すばらしい教授陣やスタッフの方々、そして女子学生も増えて何か明るく温かい雰囲気、先日40年振りにホームカミングデー・大樟会総会に参加させていただき感じました。また、明石支部のこれからの課題は、支部の会員を増強することと考えております。今後ご指導の程、よろしく願ひいたします。

決勝の発表を熱心に聞く審査員たち



学生らしい視点で社会問題に独自の提案で望んだ決勝

昼休みをはさんだ午後1時30分にスタートした決勝では、横内恵ゼミ「ECOレンジャイ」が「コミニティサイクル」のテーマで、環境モデル都市である堺市のレンタルサイクル事業の現状と課題、可能性について検討。田村健二ゼミ「チームKENJI」は「水素エネルギー」のテーマで、水素社会への第一歩としての調査し、実用性と安全性のアップルが水素推進の第一歩になるという。中村健二ゼミ「チームKENJI」は「水素エネルギー」のテーマで、水素社会への第一歩としての調査し、実用性と安全性のアップルが水素推進の第一歩になるという。中村健二ゼミ「チームKENJI」は「水素エネルギー」のテーマで、水素社会への第一歩としての調査し、実用性と安全性のアップルが水素推進の第一歩になるという。



レベルの高い発表 学生スタッフも活躍

午後時が決勝の結を成す。発表は、2014年度ZEMI-1グランプリの1位は中村健二ゼミ「チームKENJI」が、2位は徳永光俊ゼミ「徳ちゃんず」が、3位は田村健二ゼミ「チームKENJI」が獲得した。閉会式では徳永光俊が、素朴な挨拶で「ナポレオン」を聞かせていた。大経大の学生が表彰された。運営の学生スタッフも頑張った。



進決勝進出チーム

第5回 ZEMI-1 グランプリ

第2位 徳ちゃんず

「注染に見る伝統と革新～堺に根づく職人の技～」
地場産業の事例として、堺市の伝統産業である「注染」の現状や、伝統に個性を付加した新製品などを現地調査。ローカルに基づく革新をグローバルに発信していく重要性を強調した。



第3位 チーム中村C班

「節約デキスパートの提案～近隣スーパーの価格比較アプリ～」
スーパーが利用しているネットチラシに着目。ニーズに応じてチラシを変更しリアルタイムに配信でき、さらに最安値検索機能や家計簿機能なども備えたアプリを提案した。

あいさつする 徳永光俊



懇談会の様子

みんなの力を一つにして ゼミの大経大を実現!!

中村健二ゼミ「チームKENJI」が 優勝

農家を支援するサービスを提案



第1位 チームKENJI

「学生による農家のための6次産業化支援プロジェクト『学農』の提案」
高齢化・所得低下といった日本の農家の現状を打破するため、6次産業化をキーワードとした解決策として、学生が農家の新規事業計画を支援するビジネスプランを提案した。

18チームがそれぞれのテーマでプレゼン発表!

準決勝はA、Bの6つのグループに分かれて行われた。山本一朗ゼミは「女性活用」をテーマに、アンテナショップは「ゲート調査や企業の取り組みを分析」し、さらなる女性活用の推進で小豆島・三都半島を調査。そして18チームによる発表の終了後、各グループから上位1チームが選出され、中村健二ゼミ「チームKENJI」、田村健二ゼミ「水素エネルギー」、横内恵ゼミ「ECOレンジャイ」、徳永光俊ゼミ「徳ちゃんず」、田村健二ゼミ「チームKENJI」の5チームが決勝に進出した。

ZEMI-1グランプリ準決勝・決勝が11月1日(土)、午前10時30分からD館4・5階で行われた。開会式では実行委員長の赤澤弘基さん(経営学部3年)が「待ちに待った準決勝・決勝の日。最多となる57チームによる予選から18チームが進出し激戦が予想される。私たちも予選よりさらに気合いを入れて運営していく。ご健闘を」と開会宣言。昨年度の優勝チーム「江島ゼミ」(OMF)から優勝トロフィーが返還され、徳永光俊学長が「全てのチームに優勝の可能性がある。最高のパフォーマンスを見せてほしい」とあいさつした。



決勝進出チーム

動物福祉を考えるドキュメンタリー映画の 上映会とトークセッション 開催



トークセッションをする杉本さんと細川さん



「動物福祉を考えるドキュメンタリー映画の上映会とトークセッション」が、9月22日(月)午後3時からD館1階会場で開催された。これは、日本年間20万匹近くのイヌやネコが処分されている現状を知り、ヒトとペットの幸せを考えようという催し。

「動物福祉を考えるドキュメンタリー映画の上映会とトークセッション」が、9月22日(月)午後3時からD館1階会場で開催された。これは、日本年間20万匹近くのイヌやネコが処分されている現状を知り、ヒトとペットの幸せを考えようという催し。

「動物福祉を考えるドキュメンタリー映画の上映会とトークセッション」が、9月22日(月)午後3時からD館1階会場で開催された。これは、日本年間20万匹近くのイヌやネコが処分されている現状を知り、ヒトとペットの幸せを考えようという催し。



上映会の様子

ペットと幸せに 暮らすための環境とは

「動物福祉を考えるドキュメンタリー映画の上映会とトークセッション」が、9月22日(月)午後3時からD館1階会場で開催された。これは、日本年間20万匹近くのイヌやネコが処分されている現状を知り、ヒトとペットの幸せを考えようという催し。

「動物福祉を考えるドキュメンタリー映画の上映会とトークセッション」が、9月22日(月)午後3時からD館1階会場で開催された。これは、日本年間20万匹近くのイヌやネコが処分されている現状を知り、ヒトとペットの幸せを考えようという催し。

「動物福祉を考えるドキュメンタリー映画の上映会とトークセッション」が、9月22日(月)午後3時からD館1階会場で開催された。これは、日本年間20万匹近くのイヌやネコが処分されている現状を知り、ヒトとペットの幸せを考えようという催し。

『大学教育を良くする委員会』(正式名称は全学FD委員会)委員長の古宮昇(こみやのぼる：人間科学部教授)です。先生方が授業を改善し向上させるための委員会です。

全学FD委員会は2008年に発足し、新任者研修、教員相互の授業見学、他大学の見学など、教育力向上に向けてさまざまな活動を行っています。

今回は、第22回の授業力向上セミナー(全学FDフォーラム)の紹介をします。

F D 通信



情報社会学部の中村健二准教授を講師にお招きし、このようにゼミを運営されているのか、まさに「ゼミ活性化の“ヒケツ”」をお話しいただきました。本学の先生方と事務職員が集まりました。

中村先生のゼミ生たちは西日本のビジネスコンテスト大学対抗戦において、関関同立や難関国立大学のゼミ生を抑えて優勝したり、本学ZEMIER1グランプリでも毎年のように入賞し今年は一位と3位を受賞するなど、輝かしい実績を重ねています。

第22回全学FDフォーラム ゼミ活性化の “ヒケツ”

講師 中村健二准教授 情報社会学部
2014年10月24日(金)開催



そんな中村ゼミは情報社会学部の学生たちのあいだで「厳しいゼミ」として定評になっているそうです。中村先生は、①ゼミ主体の生活になるという覚悟を学生にもたせ、②グループワークによりチームワークを身に付けさせ、さらに③ビジネスプランコンテストで賞を取るために厳しい課題に

取り組ませておられます。厳しい課題とはなにか、各々が毎週、新しいビジネスアイデアを5つも考えて来て発表しなければならず、そのアイデアについて先生が褒めることは決してないそうです。学生らは、決して褒められることもないのに、新しいビジネスアイデアを見つけてようと、毎日考え続けるようになります。

その他の 活動報告

●学生座談会 「あなたのホンネを聞かせてください！
～大学の授業をより良くするために～」

2014年8月17日(月)17:00～18:00

以上の日程で開催しました。今後も継続していく予定です。

今年度、実施されました公立学校の教員採用試験結果をお知らせします。

2010年から始まった教員採用試験プログラム。3年生の秋から筆答試験の講座を受講し、人物重視の自治体対策として、人物対策講座(集団面接、個人面接、模擬授業等)で磨き、また大樟教育研究会の先生方からも指導を受け、力を

卒業されてから教員採用試験に合格された方は下記までご連絡ください。

メール窓口

kyosyoku@osaka-ue.ac.jp
教職課程事務室

●人間科学部人間科学科
馬場 奎太
東京都/中高保健体育

大経大初の保健体育現役合格することができてすごく嬉しい。こうして合格できたのも、親しい友人と互いに高め合えたこと、また同じ志を持った仲間と一緒に頑張れたこと、そして先生方や教務部の方々にサポートしてもらえたことが大きな要因だと思う。これからは教員という仕事に取り組んでいくための準備をしていかないとけないので再度気を引き締めていきたい。

現役合格者の 声



●人間科学部経済学科
久保 卓也
和歌山県/小学校

大学生活を送る中での最大の目標だった教員採用試験に無事合格することができてとてもうれしい。自分は本当に周りの環境に恵まれていると思う。大学の採用試験に向けたサポート体制が充実していたことや同じ教師を目指す頼もしい友達がいてくれたからこそ合格することができた。残りの大学生活で、今だからこそできることに取り組み、来年の4月に向けてしっかり準備していきたい。

教員採用状況 教員採用選考試験合格者

2014.12.2現在

卒業年月	学部学科	氏名	採用自治体	校種/教科
2015年3月卒業予定	経済学部経済学科	久保 卓也	和歌山県	小学校
2015年3月卒業予定	人間科学部人間科学科	馬場 奎太	東京都	中高/保健体育
2014年3月卒業	経済学部経済学科	岡田 直人	大阪府	小学校
2014年3月卒業	経済学部経済学科	島津 裕行	堺市	小学校
2014年3月卒業	経営情報学部ファイナンス学科	坂口 和哉	大阪府	高校/国語
2014年3月卒業	経営情報学部ファイナンス学科	高岡 周平	大阪府	小学校
2014年3月卒業	人間科学部人間科学科	中村 和輝	兵庫県	中学/社会
2013年3月卒業	経済学部経済学科	藤川 泰輔	兵庫県・神奈川県	高校/情報
2012年3月卒業	経済学部経済学科	島田 一樹	大阪市	小学校
2012年3月卒業	経済学部地域政策学科	荻野 直人	兵庫県	中学/社会
2012年3月卒業	人間科学部人間科学科	宮本 拓真	大阪市	小学校
2012年3月卒業	人間科学部人間科学科	三島健太郎	堺市	小学校
2011年3月卒業	経済学部経済学科	岸田 一等	京都府	高校/地理歴史
2011年3月卒業	人間科学部人間科学科	長谷川侑都	神戸市	中学/保健体育
2009年3月卒業	経営学部第1部経営学科	山本 慎也	奈良県	高校/商業
2009年3月卒業	経営情報学部ファイナンス学科	中川 敬司	大阪府	高校/国語
2008年3月卒業	経済学部経済学科	奥山 良太	大阪府	中学/保健体育
1997年3月卒業	経済学部経済学科	大久保 諭	大阪府	高校/地理歴史(世界史)

※大学に報告のあった方のみ掲載。

平成27(2015)年度

教員採用選考試験結果



Benesse
大学シンポジウム2014

学生の主体性を引き出す 工夫と仕掛けづくりを

「Benesse大学シンポジウム2014(大阪会場)／株式会社ベネッセコーポレーション大学事業部主催」が、7月12日(土)午後1時から、本学C館31教室で開催された。6月28日(土)の東京会場(国際学院大学・渋谷キャンパス)に続くもので、第1部では調査報告と実践報告、第2部ではパネルディスカッションが行われ、事前に申し込みのあった170名の大学関係者などが参加した。



山下 直樹

シンポジウムのメインテーマは「学生が成長する教育改革」学びに向かう動機づけの工夫と効果」第1部の調査報告では、ベネッセ教育総合研究所・高等教育研究室の山下 直樹(なしたなoki)研究員が「主体的学びへの気づき」をテーマに、どのような工夫と仕掛けをすることで、学生の主体性を引き出すことが可能か、という問いを提示し、大学生の成長を促すカリキュラム設計のあり方について、独自の調査データをもとに基本的な考えを披露した。

田村俊之准教授



田村俊之准教授(経営学部)は「カリキュラムや個々の授業における動機づけの工夫と効果」をテーマに、社会で役立つ職業人育成のためのカリキュラム改革の試みについて報告。本学の教育の基本的方針である「つながる力」「ゼミナールの充実」「就職率の向上」などに對する取り組みや成果をデータで提示。社会人基礎力を強化する科目の設置、履修者数の増加と授業の質



パネルディスカッションの様子

第2部のパネルディスカッションでは、報告を行った山下 直樹氏・田村俊之准教授・荻田真司教授の3名に、本学の黒正洋史准教授の支援部長、ベネッセ大学事業部の藤浦芳江商品ディレクターの2名が加わり、「学生が主体的に学ぶ」をテーマに、カリキュラム設計・授業設計と評価・改善のテーマで議論。シンポジウム申込時に受け付けた質問に各パネリストが答えた後、学生を中心に据え、どのような工夫と仕掛けで、学生の主体性を引き出すことが可能か、という問いを提示し、大学生の成長を促すカリキュラム設計のあり方について、独自の調査データをもとに基本的な考えを披露した。



荻田真司教授

の両立、取り組みの結果と今後の課題などについて具体的に説明した。また国際学院大学法学部の荻田真司教授は「キャリア教育を中心とした初年次教育科目から専門科目への橋渡し」キャリア・プランニングの実践例」というテーマで、具体的な取り組み事例を紹介。学生の反応などの成果と、動機づけを生かすための残された課題などを報告した。

大経大講座・客員教授講演会

ソーシャルメディアの 利便性と課題とは

大経大講座・客員教授講演会(エクステンションセンター)主催が6月6日午後6時30分から8時まで、D館・80周年記念ホールで開催された。講師はジャーナリスト&メディア・アクティビストの津田大介氏で、講演テーマは「ソーシャルメディアと変わるマーケティング」。突然の大雨という悪天候にも関わらず92名の市民や本学学生などが聴講した。



津田大介氏

津田氏はまず、「メディアが大きく変わる節目の時代に大学生活を送った。自ら情報発信できるインターネットが出現し可能性を感じた」と、現在の仕事に携わることになったきっかけを語り、「情報環境の変化が社会やビジネスをどう変えていくのか」をテーマに執筆活動や大学での授業なども行っている自己紹介。そして

社会に大変革をもたらしたソーシャルメディアについて、「かつて駅にあった伝言板を世界のパソコンやケータイから読み書きできるようになったもの。TwitterやFacebookが出現した2006〜2007年を転機として、ライフスタイルやワークスタイルが変化した」と説明。ソーシャルメディアを読み解くキーワードとして「リアルタイム性、共感・協調、具体的行動の促進、参加や離脱が容易なオープン性、透明性による興味喚起」などを挙げた。



津田大介氏

またテレビ・ラジオ・新聞などのマスメディアと、ブログ、新聞社のWEBサイト、動画、Twitterなどのネットメディアが情報を届ける速度や人数を具体的に数値で比較。「ソーシャルメディアは、瞬時に数千万単位に情報が届けられるなど拡散力が高い。しかし単独メディアだけでは、『うねり』は起きない。まずソーシャルメディアで情報を広げ、マスメディアに取り上げてもうという相乗効果が重要」と強調した。

そのうえで企業におけるソーシャルメディアの運用について、「情報をオープンにする。業務として専任の担当者を決める。個人のユーザーと対話の姿勢を出す。個人の顔が見える運営を心がけるなど、人とつながる」をテーマに、津田氏は丁寧に回答。「ソーシャルメディアには、自分の欲しい情報が入ってくるという危険性もある。本や雑誌を読み、いろいろな意見を聞くことが大事」とアドバイスした。

平素より大阪経済大学のためにご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。現在、少子化の進展、志願者の獲得をめぐる大学間競争の激化、経済状況と家計の悪化、就業環境の変化と格差など、大学と学生を取り巻く環境は厳しさを増しております。このような中で本学が社会的責務を果たし、持続的に発展するためには、教育の環境と内容を継続的に充実・改善することが必要であると認識し、これらを通して学生一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い視野と見識を持った社会で活躍できる人材を育成してまいります。そのために、①海外留学支援などのグローバル人材の育成、②奨学金制度の充実、③施設の整備・充実に取り組んでまいります。

教育振興募金にご協力を



詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください
<http://www.osaka-ue.ac.jp/information/contribution/>

「17歳からのメッセージ」表彰式



賞状を持って記念撮影をするグランプリの2人と徳永学長

表 彰 式

第14回高校生フォーラム

大阪経済大学第14回高校生フォーラム「17歳からのメッセージ」表彰式が、11月16日(土)午後1〜3時まで、D館12教室ならびに80周年記念ホールで開催された。今回は2万7千176通に及ぶ応募作品の中から、グランプリ4作品、学生審査員賞1作品、金賞9作品、銀賞57作品、奨励賞80作品、学校特別賞30校が選ばれた。

文章を書いて心を満たす

第一部・表彰式では、徳永光俊学長が「17歳の若くて強い気持ちが作品に出ている。最近の若者は内向きと言われるが、内向きであることは悪いことではなく、自分を見つめなおす力

を持っているということ。21世紀は無限から有限の時代に変化しつつあり、不安や閉塞感がある中で、どう生きてゆくのかわ。それを考える芽が皆さんの中にある。その芽を育て花を咲かせて

ほしい」とあいさつした。続いて審査員代表の読売新聞大阪本社、西井淳氏編集委員が、「文章は、書いている人の性格や暮らしぶりなどが行間から滲み出る。それを読み取り、書き手に思いを巡らせるのが面白く、



あいさつする徳永光俊学長

今日皆さんに会えることを楽しみにしていた。社会におけるコミュニケーションの有効なツールとして、今しか書けない文章を書き続けてほしい」と講評。その後、徳永学長から、表彰式に出席したグランプリ・金賞・銀賞受賞者に賞状や目録などが手渡された。



思いを伝えることで

自分自身が見える

第二部・懇親パーティはD館8階・80周年記念ホールに移動して行われ、まず佐藤武司理事長が「皆さんのメッセージを読みながら自身の17歳を振り返った。

そして受賞者同士や同行の教諭、保護者などが和やかに歓談するなか、「尊敬するお母さん」のテーマでグランプリを受賞した深町真未さん(セントヨゼフ女子学園高等学校)は、「今回の経験は大学受験の小論文などで役立つと思う。将来は看護職に就き、患者さんが笑顔になれるような看護職をめざしたい」と述べた。また「私のカバン」のテーマでグランプリを受賞した金



金梨月さん

梨月さん(神戸朝鮮高級学校)は、「どんな志を持ち生きていかないとけないのかを考えることができた。私たちは難しい状況の中で生きていくが、希望を持ち、楽しく自由に生きていく未来をめざしたい」と、受賞の喜びや作品に込めた思い、将来の夢などを語った。最後に、本学経済学部・近藤直美教授が「皆さんの声を聞き文章を読むことは、大人の私たちにとって非常

に大切。自分の中にあった本音が声になって出てくることで人に感動を届けられる。今回の作品が、将来、自分の人生や内面を見つめ直す機会になれば嬉しい」とあいさつし、パーティは閉会となった。

応募作品のレベルに大きな差は無く、素晴らしい文章力だと感じた。これからも文章を書くことに力注いでほしい」とあいさつし、全員で乾杯した。



挨拶する佐藤理事長



深町真未さん

大勢の学生が参加する表彰式の様子。背景には「17歳からのメッセージ」の横断幕が掲げられていた。



2015年度 一般入試

前期

● A方式(2教科)入試

■ 出願期間

2015年1月5日(月)～1月19日(月)
締切日消印有効

■ 試験日

2015年1月28日(水)・29日(木)・
30日(金)

試験日自由選択制

■ 合格者発表

2015年2月14日(土)

● B方式入試(3教科型・ベスト2教科型)

■ 出願期間

2015年1月5日(月)～1月23日(金)
締切日消印有効

■ 試験日

2015年2月5日(木)・6日(金)

試験日自由選択制

■ 合格者発表

2015年2月14日(土)
※3教科型で受験した中の高偏差値の2教科で合否判定を行います。
※ベスト2教科型のみ出願はできません。

● C方式入試(大学入試センター試験利用) (4教科型・3教科型・ベスト2教科型)

■ 出願期間

2015年1月5日(月)～1月29日(木)
締切日消印有効

■ センター試験日

2015年1月17日(土)・18日(日)
※C方式はセンター試験の結果をもとに選考します。本学の個別学力検査はありません。

■ 合格者発表

2015年2月14日(土)

後期

● D方式(2教科)入試

■ 出願期間

2015年2月16日(月)～2月24日(火)
締切日消印有効

■ 試験日

2015年3月4日(水)
※異なる2学科の併願が可能。

■ 合格者発表

2015年3月12日(木)

※詳細は本学WEB、入試要項にてご確認ください。

大学のホームページ(<http://www.osaka-ue.ac.jp/>)でも様々な情報を掲載しています。